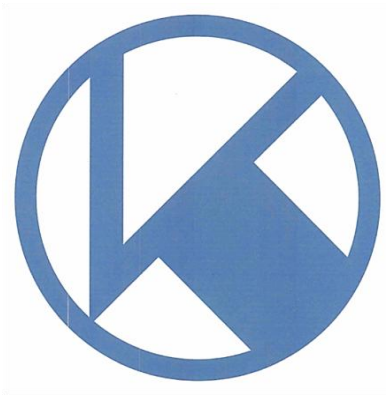
2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要



こども未来学科
1年生

学校法人こおりやま東都学園

こども未来学科　2026年度生　履修一覧

1年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
外国語、体育以外の科目	憲法	
	情報処理	
	ポケット・ゼミ	
外国語	英語	
体育	健康・スポーツ理論	
	健康・スポーツ実技	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	●
	教育原理	●
	子ども家庭福祉	●
	社会福祉	●
	社会的養護Ⅰ	●
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	●
	子どもの理解と援助	
	子どもの保健	●
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	
	保育内容総論Ⅰ	
	健康指導法	
	人間関係指導法	
	環境指導法	
	子どもの生活と遊び（表現と運動）	
	子どもの生活と遊び（音楽とリズム）Ⅰ	●
	子どもの生活と遊び（感性と創造）	●
	子どもの生活と遊び（言葉と児童文化財）	●
	乳児保育Ⅰ	
	乳児保育Ⅱ	
	音楽・ゼミⅠ	
	音楽・ゼミⅡ	
保育実習	保育実習指導Ⅰ	●

2年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
保育の本質・目的に関する科目	子ども家庭支援論	
	保育者論	
	医療保育総論	
	多職種連携総論	
保育の対象の理解に関する科目	子ども家庭支援の心理学	
	子どもの食と栄養	●
	発達障害児の理解と対応	
保育の内容・方法に関する科目	言葉指導法	
	表現指導法	
	子どもの健康と安全	
	障害児保育	
	社会的養護Ⅱ	●
	子育て支援	
	居住環境学	
	感覚統合入門	
	在宅保育	
	保育内容演習Ⅰ	
	子どもの生活と遊び（音楽とリズム）Ⅱ	●
	保育内容演習Ⅱ	
	入門臨床美術	
保育実習	保育実習Ⅰ	
	保育実習指導Ⅱ	
	保育実習Ⅱ	
	保育実習指導Ⅲ	
	保育実習Ⅲ	
総合演習	保育実践演習	

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
憲法	米谷　光正 一般	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

日本国憲法は、人間が自由・生命などの権利を、幾多の試練を乗り越えて獲得した歴史の成果であり、医療・福祉・介護・保育を目指すために必要な科目である。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①クラスで行われるグループ・ワークでコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。②日本国憲法と明治憲法を比較することができる。③自然法が何故人間にとっての自由・生命の権利になったかをロックなどの思想家を紹介して説明できる。④基本的人権の権利を説明することができる。⑤幸福追及権をグループ・ワークで討議する。⑥生存権、平等権、表現の自由などを理解し、グループ・ワークで討議する。⑦社会の問題に憲法を適用し、解決する。	考え抜く力

【履修上の注意】毎時間の課題レポートの作成を励行すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	コースの内容、グループワーク(GW)、講義の方法を説明する。	グループ
2	教養とは	教養について学生個人、グループワークで授業を進める。	グループ
3	自然法(1)	人間の自由のために自由法が主張され、人権の萌芽がめばえたことを理解する。	個人
4	自然法(2)	ホップス・ロック・ルッソーについての理論を比較する。	グループ
5	憲法の基礎(1)	憲法の意義を理解し、それを歴史的に理解し、説明することができる。	個人
6	憲法の基礎(2)	日本国憲法と明治憲法を比較することができる。	個人
7	憲法の基礎(3)	憲法、法律、政令、省令、条約の関係を説明することができる。	個人
8	基本的人権の内容	基本的人権を構成する権利を理解し、グループワークで課題を討議する。	グループ
9	基本的人権の制限	基本的人権を公共の福祉による制限について、判例を検討しながら考える。	グループ
10	幸福追求権(1)	幸福追求権を理解し、その特徴をグループワークで討議する。	グループ
11	幸福追求権(2)	幸福追求権についての判例を検討して、グループワークで討議する。	グループ
12	表現の自由	表現の自由の多様な権利を把握し、判例を批評する。	グループ
13	平等権	平等権を理解し、代表的な判例を批評できるようにする。	個人
14	生存権	生存権の理論を理解し、判例の歴史的返還を習得する。	個人
15	まとめ	憲法全般についての応答を行う。	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度 30% 筆記試験 70%

【教科書】	日本国憲法　人権と福祉(南窓社)
【参考書】	授業に必要な参考資料をその都度配布する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
健康・スポーツ理論	山内　翼 一般	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	8(15)	講義	1

【授業の概要・目的】

基礎教養科目として位置づけ、運動と健康の関係を科学的に捉え運動による健康の保持・増進に関わる知識を習得する。また、健康で心豊かに生きていくために必要なことは何かを理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①身近な健康について目を向け、理解を深めることで、自己の健康管理に繋げることができる。 ②自身の健康だけでなく、周りの人への健康に関する配慮について考えることができる。 ③各種保健活動について理解することができる。 ④正しい知識を身に付けた上で、行動選択ができる。	前に踏み出す力 チームで働く力 コミュンケーションスキル 知識・理解

【履修上の注意】毎時間の課題レポートの作成を励行すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	健康のとらえ方 (教室授業)	「健康とは何か。」健康は私たちにとって、とても身近な話題である。しかし、この問いの答えは簡単ではない。健康のとらえ方についてあなたの答えを見つけていく。	個人
2	喫煙と健康について (教室授業)	喫煙は世界的な健康問題であるとして、日本をはじめ各国で様々な対策が行われている。喫煙は、なぜそれほどまでに大きな問題とされているのか学ぶ。	個人
3	飲酒と健康について (教室授業)	飲酒は、交通事故や暴力事件などの社会問題だけでなく、深刻な健康問題をもたらすことがある。飲酒は健康にどのような影響を与えるのか学ぶ。	個人
4	薬物乱用と健康について (教室授業)	世界中で薬物乱用が絶えない。なぜ、社会は薬物乱用を大きく取り上げるのか、また個人として社会として何をするべきかを考える。	個人
5	生活習慣とその予防 (教室授業)	がん・心臓病・脳卒中などの病気は、自分とは無関係だと思っている人が多くいる。しかし、あなたの生活習慣が、その原因になる可能性がある。健康的な生活習慣について考える。	個人
6	妊娠・出産と健康、家族計画と人工妊娠中絶 (教室授業)	新しい命が誕生する時、特に健康に対して注意しなければならない時期でもある。また、望まない妊娠・出産は親子にとって大きな負担となる可能性があるということを学ぶ。	個人
7	日常的な応急手当と意義 (教室授業)	怪我や熱中症の応急手当の知識を身に付けていると、日常生活で大いに役立つ。正しい方法や手順を学ぶ。	個人
8	心肺蘇生法について (教室授業)	心肺蘇生法の知識を身に付けていると、日常生活で大いに役立つ。正しい方法や手順を学ぶ。	個人
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	課題レポート	評価方法	レポート 80% 課題の達成度 20%

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	日頃から規則正しい生活や食事を心がけること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
健康・スポーツ実技	山内　翼 一般	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

基礎教養科目として位置づけ、自己の健康保持・増進を図り生涯スポーツへと繋がる運動技能を獲得する。
さらに、これまで体験して来た球技やレクリェーション種目等の技術向上を図る。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動技能を高める。 ②仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。 ③各種スポーツを仲間と共に体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。 ④将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。	前に踏み出す力 チームで働く力 コミュニケーション技術

【履修上の注意】運動着・シューズの着用と水分補給のための飲料を持参すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ガイダンス	1.ストレッチング運動の方法　2.活動時における取り組み方 3.器具・機材の安全管理	グループ
2	バレーボール	簡易ゲームによる個々の技能確認	グループ
3	バレーボール	実践に近い様式での集団技能の練習と習得	グループ
4	バレーボール	男女混合によるゲーム (男女の基本的技能の差異を考えてのゲームコントロール)	グループ
5	エアロビクス	体力づくりの運動	グループ
6	バドミントン	個人技能の練習と習得	グループ
7	バドミントン	シングルの簡易ゲーム	グループ
8	バドミントン	ダブルスの簡易ゲーム	グループ
9	バスケットボール	実践に近い様式でのゲーム感覚の練習	グループ
10	バスケットボール	男女混合によるゲーム (男女の基本的技能の差異を考えてのゲームコントロール)	グループ
11	卓球	個人技能の練習と習得	グループ
12	卓球	シングルの簡易ゲーム	グループ
13	卓球	ダブルスの簡易ゲーム	グループ
14	インディアカ	インディアを体験し、ニュースポーツについて学ぶ	グループ
15	ウォーキング・軽スポーツ	ウォーキングとその効果について学ぶ	グループ

期末試験		評価方法	受講態度 60%	授業への貢献 40%

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	日頃から規則正しい生活や食事を心がけること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
情報処理(1/2)		清野　晃紀 一般			矢吹
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

パソコンを用いた資料作成方法を理解して、文書、表計算、プレゼンテーションを学習し知識を身につける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①コンピュータ、インターネットの基本知識について理解できる。 ②文書の作成入力・編集ができ、既存のデータ・写真の利用ができる。 ③表計算の基本及び編集、印刷とグラフ・データベースの操作ができる。 ④パワーポイントの基礎・編集及び特殊効果の設定ができる。 ⑤プレゼンテーション用の資料作成とスライドショーでの発表ができる。	考え抜く力

【履修上の注意】	教科書,USBを忘れずに持参すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	情報処理の基礎知識	オリエンテーション、コンピュータとインターネット、Windowsの基礎知識とパソコン上でofficeを利用するための基本知識を理解する。	個人
2	Wordによる文書の作成と管理	wordの基礎知識、文書の作成、文書の印刷とページ設定　wordで文章を作成し、管理するための基本となる手順・操作を身につける。	個人
3	Wordによる表の作成と文書の編集	表の作成、文書の編集・文書に挿入する表作成と文書の編集の手順・操作が理解できる。	個人
4	wordによる既存データを利用した文書の作成	表現力をアップする既存のデータや写真を文書に挿入して利用する方法が理解できる。	個人
5	wordによる長文作成	長文の目次の設定方法、及び業務で使用する文書作成の基本的ルールが理解できる。	個人
6	Excelによる表作成の基本操作	Excelの基本知識、データの入力・編集 Excelで表を作成するための基本となる手順・操作が理解できる。	個人
7	Excelによる表の編集と印刷	表の作成、表の印刷 表を見やすく、使い易くするための編集・印刷の手順・操作が理解できる。	個人
8	Excelによる集計表の作成	いろいろな数式 集計表を作成するときに用いる数式や関数について理解できる。	個人
9	Excelによるグラフの作成とデータ操作	グラフと図形、データベースの利用 グラフ作成、及びデータの並び替えと抽出の手順・操作が理解できる	個人
10	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成	PowerPointの基礎知識、プレゼンテーションの作成、プレゼンテーション資料を作成するための基本となる手順・操作が理解できる。	個人
11	PowerPointによるビジュアル表現	図表・グラフ・表の挿入と編集、特殊効果の設定、印刷関係の機能、ビジュアルな表現により質の高い基礎的な手順・操作が理解できる。	個人
12	PowerPointによる効果的なプレゼンテーション	スライドショーをサポートする機能、プレゼンテーションの基本技能、効果的なプレゼンテーションを行うための必要ポイントが理解できる。	個人
13	PowerPointによる効果的なプレゼンテーションの実際　1	自己紹介資料の作成から発表までを体験することにより、プレゼンテーション資料作成の知識を身につける。	個人
14	PowerPointによる効果的なプレゼンテーションの実際　2	PowerPointを用いたプレゼンテーションの実施と評価を通して、プレゼンテーションの基本を理解する。	個人
15	まとめ	講義のまとめをする。	個人

期末試験	課題発表	評価方法	受講態度　30%	課題の達成度　70%

【教科書】	Word2019＆Excel2019＆PowerPoint2019 (FOM出版)　よくわかるMicrosoft　Word2019(FOM出版) よくわかるMicrosoft　Excel2019(FOM出版)　　情報モラル・セキュリティ　改定4版(FOM出版)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習・復習は意欲的に取り組みましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
情報処理(2/2)		清野　晃紀 一般			矢吹
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

パソコンを用いた資料作成方法を理解して、文書、表計算、プレゼンテーションを学習し知識を身につける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①情報モラル、情報セキュリティーなどのネット社会での危険と対策を理解できる。 ②図表を使って効果的に見せる、文書の作成・編集ができる。 ③差し込み印刷や文書の校閲などの応用操作が理解できる。 ④関数やグラフィックを使った表計算を作成理解ができる。 ⑤ピボットテーブルやマクロを使ってのデータ分析、操作ができる。	考え抜く力

【履修上の注意】	教科書、USBを忘れずに持参しましょう。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	情報モラルと情報セキュリティ	オリエンテーション、個人情報などネット社会に潜む危険やトラブル回避のための情報モラルと情報セキュリティ対策について理解できる。	個人
2	Wordによる図形や図表を使った文書の作成	SmartArtグラフィックや図形等のオブジェクトを挿入し、それらのオブジェクトに効果的な書式を設定することができる。	個人
3	Wordによる写真を使った文書の作成	画像の圧縮と加工、写真の編集、図の挿入、トリミングやアート効果の設定など、画像を効果的に見せる手順・操作が理解できる。	個人
4	wordによる差し込み印刷	差し込み文書の作成、案内状や挨拶状、宛名ラベルなどExcelで作成したデータを差し込んで印刷する手順・操作が理解できる。	個人
5	wordによる長文作成の活用	長文の作成に便利な機能を理解し文書全体に統一したデザインを適用する手順・操作が理解できる。	個人
6	word文書の校閲	文書校正機能、コメントの挿入、変更履歴を使った文書校閲文書を閲覧するときに役立つ機能の手順・操作が理解できる。	個人
7	WordによるExcelデータを利用した文書作成と便利な機能	リンク貼り付け、セッション区切り、文書の保護、Excelデータとの連携や文書を管理するための便利な機能の手順・操作が理解できる。	個人
8	Excelを利用した関数の利用	関数の概要、関数の活用関数を理解し関数を使った数式を活用する手順・操作が理解できる。	個人
9	Excelを利用した表作成の活用	条件付き書式、ユーザー定義の表示形式、入力規則、コメントの挿入シートの保護など便利な機能を使いこなす手順・操作が理解できる。	個人
10	Excelを利用したグラフの活用	複合グラフの作成、補助縦棒付き円グラフの作成、スパークライン視覚的にわかり易いグラフを作成する手順・操作が理解できる。	個人
11	Excelを利用したグラフィックの利用	SmartArtグラフィックの作成、図形の作成、テーマの設定、様々なグラフィックを利用する手順・操作が理解できる。	個人
12	Excelを利用したデータベースの活用	データの集計、表をテーブルに変換する集計、テーブル機能を使い効率よくデータを管理する手順・操作が理解できる。	個人
13	Excelを利用したピボットテーブルとピボットグラフの作成	ピボットテーブルの作成と編集、ピボットグラフの作成データを多角的に集計・分析する手順・操作が理解できる。	個人
14	Excelを利用したマクロの作成	マクロ概要、マクロの作成と実行、マクロ有効ブックとして保存作業を自動化して効率よく作業を進める手順・操作が理解できる。	個人
15	まとめ	講義のまとめをする。	

期末試験	課題発表	評価方法	受講態度 30%	課題の達成度 70%

【教科書】	Word2019＆Excel2019＆PowerPoint2019 (FOM出版)　よくわかるMicrosoft　Word2019(FOM出版) よくわかるMicrosoft　Excel2019(FOM出版)　　情報モラル・セキュリティ　改定4版(FOM出版)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習・復習は意欲的に取り組みましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
ポケット・ゼミ(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目	田母神　知加子 保育所（保育士）9年勤務・幼稚園（幼稚園教諭）2年勤務	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

基本的な学習方法や社会人に必要なスキルを具体的に習得する。また、グループディスカッションを通して自分の考えを述べたり、他者の意見を聞く力を育成する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①社会人として必要な国語力を身につける ②専門学校での学ぶ意味を説明できる ③基本的な学習方法を実践する ④グループワークを通じて、コミュニケーション力を身につける ⑤保育学生としてのマナーを身につける	考え抜く力 コミュニケーション技術 生活援助技術 相談支援技術

【履修上の注意】常に手帳を持参するようにしましょう。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	生活デザイン設計・講義の受け方 保育の基本用語(漢字の練習)	一年間の生活スケジュールを組み立てる。専門学校の講義の種類や特徴を知りノートの取り方や提出物の方法を知る。	個人
2	保育学生としてのマナー① 保育の基本用語（漢字の練習）	保育学生の基本的なマナー（表情・挨拶・お辞儀）を理解する。	グループ
3	保育学生としてのマナー② 保育の基本用語（漢字の練習）	保育学生として感謝や謝罪のマナー・訪問時のマナーを理解する。	グループ
4	保育学生としてのマナー③ 保育の基本用語（漢字の練習）	保育学生として病気や感染症への事前対応について理解する。	グループ
5	保育場面におけるマナー① 保育の基本用語（漢字の練習）	実習オリエンテーションの準備や保育学生としての服装・メイクについて理解する。	グループ
6	保育場面におけるマナー② 保育の基本用語（漢字の練習）	保育の場で気を付けたい所作を理解する。	グループ
7	保育場面におけるマナー③ 保育の基本用語（漢字の練習）	保育の場での持ち物や保育者への質問の仕方について理解する。	グループ
8	保育場面におけるマナー④ 保育の基本用語（漢字の練習）	保育の場での物の借り方や返し方、メモの取り方を理解する。	グループ
9	保育の場におけるマナー⑤ 保育の基本用語（漢字の練習）	保育の場での環境整備について理解する。	グループ
10	保育の場におけるマナー⑥ 保育の基本用語（漢字の練習）	お茶の入れ方や個人情報・守秘義務について理解する。	グループ
11	保育学生としての言葉① 保育の基本用語（漢字の練習）	話し言葉のトレーニングについて理解する。	グループ
12	保育学生としての言葉② 保育の基本用語（漢字の練習）	書き言葉（日誌・レポート・原稿用紙の使い方）について理解する。	個人
13	保育学生としての言葉③ 保育の基本用語（漢字の練習）	書き言葉（さまざまな文章の書き方）について理解する。	個人
14	学校行事に参加する 矢吹	学校行事のねらいや目標を考えチームワークの大切さを理解する。	個人
15	定期試験の準備	試験の形式やルールを理解し、それに必要な準備や見通しを立てる。	グループ

期末試験	漢字・専門用語筆記試験	評価方法	受講態度 30% 課題の達成度 70%

【教科書】	保育のマナーと言葉（わかば社）　保育の基本用語（わかば社）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	本講義で立てた生活目標や学習内容を日頃から意識して生活をしましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
ポケット・ゼミ(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目	田母神　知加子 保育所（保育士）9年勤務・幼稚園（幼稚園教諭）2年勤務	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

基本的な学習方法や社会人に必要なスキルを具体的に習得する。また、グループディスカッションを通して自分の考えを述べたり、他者の意見を聞く力を育成する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①社会人として必要な知識を身につける ②専門学校での学ぶ意味を説明できる ③基本的な学習方法を実践する ④グループワークを通じて、コミュニケーション力を身につける ⑤保育学生としてのマナーを身につける	コミュニケーション技術 生活援助技術 相談支援技術

【履修上の注意】常に手帳を持参するようにしましょう。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	生活デザインの再構成 保育の基本用語（国語表現）	前期から夏休みまでの生活や目標、授業態度を振り返り後期の生活や目標を再構成する。	個人
2	学びの振り返り 保育の基本用語（国語表現）	科目ごとに前期の学習を振り返り、何を学びどれだけ理解しているか再確認して、後期の学習の対策を考える。	個人
3	特別講義 矢吹	芸術鑑賞を通して豊かな感性を身に付ける。	個人
4	アーサティブコミュニケーションとチーム力 保育の基本用語（国語表現）	アーサティブコミュニケーション力を高める意識をしながら、チームでプレゼンテーションを行う。	グループ
5	自己紹介の書き方 保育の基本用語（国語表現）	自分の強みや弱みについて考える。	個人
6	個人調書の書き方 保育の基本用語（国語表現）	個人調書の記入上の留意点を理解する。	個人
7	学校行事に参加する 矢吹	行事のねらい・目標を立て、行事の参加の仕方を考える。	グループ
8	保育実習日誌の書き方① 保育の基本用語（国語表現）	実習日誌の意味と書き方について理解する。	個人
9	保育実習日誌の書き方② 保育の基本用語（国語表現）	実習日誌記入上のふさわしい表現や文章を理解する。	個人
10	保育実習日誌の書き方③ 保育の基本用語（国語表現）	実習日誌記入上のふさわしい表現や文章を理解する。	個人
11	保育現場におけるマナー① 保育の基本用語（国語表現）	実習事前オリエンテーションまでの準備・心構えを再確認する。	グループ
12	保育現場におけるマナー② 保育の基本用語（国語表現）	保育学生として電話をかける時のマナーを理解する。	グループ
13	保育現場におけるマナー③ 保育の基本用語（国語表現）	保育学生として気を付けたい所作を確認する。	グループ
14	定期試験の準備 矢吹	各試験の形式を振り返り、試験の準備に必要なことを確認する。	個人
15	一年次の振り返りと二年次の目標 矢吹	一年間を振り返り、学校生活・家庭生活の反省を踏まえ、二年次の目標を立てる。	個人

期末試験		評価方法		
期末試験	振り返りレポート 筆記試験	評価方法	受講態度 課題の達成度	30% 70%

【教科書】	保育のマナーと言葉（わかば社）　保育の基本用語（わかば社）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】本講義で立てた生活目標や学習内容を日頃から意識して生活しましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
英語(1/2)	ロバート・ホルト 一般	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

This is a course to prepare students to communicate with and teach in English to children in a classroom setting.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①To use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students) ②To have experience of English in a number of formats (reading, listenning, music etc) ③To be expected to communicate in English and sing songs.	前に踏み出す力 発達援助技術 コミュニケーション技術

【履修上の注意】教科書・辞書を忘れずに準備すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	Saying Hello and Goodbye	Saying hello/goodbye and other forms. Introduction to classroom langage.	個人
2	"Story Time"	Common classroom events, i.e.story time, and classroom language.	個人
3	The months and seasons	Days, months and seasons and being comfortable in their use and spelling.	個人
4	Numbers	Counting, simple arithmetic use, and an introduction to ordinal numbers. Singular and plural nouns, a/an, plurals.	個人
5	Arts and Crafts	Arts and crafts, focusing on activity names and colours/materials used.	個人
6	"Potty Time"	Classroom lamguage for toilet time, washing and other "accidents".	個人
7	"Play Time "/ Mini-Test	Recap of weeks 1-6, with a focus on using the language quickly and accurately. Mini-Test (15%).	個人
8	"What's The Time?"	Telling the time and review of numbers.	個人
9	"How do you feel today?"	A focus on emotions and feelings.	個人
10	"Dinner Time"	Grammar introduction to using if / until / after / before. Review of days / months. Songs - If you're happy and you know it.	個人
11	"Bed Time"	Language useds for "bed time" and sleep related clothing/materials.	個人
12	Family	Introoducing family names. He and She focus.	個人
13	Songs	Songs that are commonly sung in a classroom.	個人
14	What is he/she doing?	Grammer introduction - present continuous; to use "I am verb-ing"accurately.	個人
15	Future Plans	Grammer introduction - using "going to" to describe future plans.	個人

期末試験	Examination	評価方法	筆記試験 80%	小テスト 10%
			受講態度 10%	

【教科書】	Test of English for Early Childhood Educators - Course Book 4点(株式会社　ブックフォレ)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	課題が出たときは忘れずにやりましょう。ミニテストに向けて自主的に勉強しましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
英語(2/2)	ロバート・ホルト 一般	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

This is a course to prepare students to communicate with and teach in English to children in a classroom setting.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①To use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students) ②To have experience English in a number of formats (reading, listenning, music etc) ③To be expected to communicate in English and sing songs.	前に踏み出す力 発達援助技術 コミュニケーション技術

【履修上の注意】教科書・辞書を忘れずに準備すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	Singular and plural nouns	Grammar introduction to count/non-count nouns. Using, "there is a pen", "there are some pens" etc.	個人
2	How much/How many?	How much and How many questions.	個人
3	Present Simple.	Using present simple and changing verb forms with I/We/you/They and He/She/It.	個人
4	Past Simple. What did you /he/she do?	Using present simple and changing verb forms with I/We/you/They and He/She/It.	個人
5	Ability and possibility	Grammar introduction to can/can`t/be able to,etc	個人
6	What do you like?	Talking about likes/dislikes.	個人
7	Fun and Games	Review lesson focusing on using the language coverd in weeks 1-6 using games and activities.	個人
8	Going to the zoo/Mini-Test.	Animal names for zoo or farm animals. Playing games and spelling activities. Mini-Test (15%).	個人
9	Who/What/Which?	Grammar introduction to question words and question format.	個人
10	Grammar-Conditions	Grammar introduction to using if / until / after / before. Review of days / months. Songs - If you're happy and you know it.	個人
11	Classroom language.	Classroom language using "colouring time" as the focus.	個人
12	Adverbs of Frequency.	Grammer introduction to adverbs of frequency.	個人
13	Christmas And The Holidays.	A Christmas focused lesson;games and party time language.	個人
14	Obigations.	Grammar introduction to must / may / should / shall etc.	個人
15	Places and Jobs.	Places around town and the countryside. Common job names.	個人

期末試験	Examination	評価方法	筆記試験 80%	小テスト 10%
			受講態度 10%	

【教科書】	Test of English for Early Childhood Educators - Course Book 4点(株式会社　ブックフォレ)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	課題が出たときは忘れずにやりましょう。ミニテストに向けて自主的に勉強しましょう。		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育原理 ※実務経験のある教員の授業科目	田母神　知加子 保育所（保育士）9年勤務・幼稚園（幼稚園教諭）2年勤務	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

保育の意義と目的を理解し、乳幼児期の保育の基本についての理解を具体的に深める。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①保育の意義と目的、内容と方法を理解する。 ②保育の法制度について理解する。 ③保育所保育指針に基づく保育の内容と方法を理解する。 ④保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ⑤保育の現状と課題について理解する。	考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術

【履修上の注意】　予習課題の励行と事前提出

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	講義概要と学習目標について理解する。成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。	個人
2	保育の理念と概念	乳幼児保育の役割と機能について理解する。	個人
3	保育の社会的役割と責任	子ども家庭福祉に関わる法律や制度について理解する。	個人
4	子ども・子育て支援新制度と保育に関わる関係法令	新制度創設の趣旨と概要、社会的養護について理解する。	個人
5	保育の実施体系	保育施設の設置や運営基準、保育施設を利用する際の申請や利用の手続きを理解する。	個人
6	保育所保育指針に基づく保育	保育所保育指針の内容や制度的位置付けについて理解する。	個人
7	保育の目標と方法	保育の目標を達成するための乳幼児期の保育に適した方法について理解する。	個人
8	乳児の保育	乳児の発達過程や保育の基本と子育て支援の重要性について理解する。	個人
9	1歳以上3歳未満児の保育	発達過程や保育の基本を踏まえ、具体的な援助や関りについて理解する。	個人
10	3歳以上児の保育	世界への関心や多方面への知性の扉を開く幼児期の保育のあり方を理解する。	個人
11	子ども理解に基づく保育の過程①理論編	保育の計画・実践・再構成のプロセスについて理解する。	個人
12	子ども理科に基づく保育の過程②実践編	学びの連続性を考えた小学校との接続について理解する。	個人
13	諸外国・日本の保育の思想と歴史	諸外国や日本の教育の思想と歴史、子育ての思想について理解する。	個人
14	諸外国の保育の現状と課題	諸外国と日本における保育の思想と歴史を知り、現代の保育とのつながりを理解する。	個人
15	日本の保育の現状と課題	諸外国と日本の保育の現状と課題について学ぶ。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　80% 受講態度　20%

【教科書】	保育原理（中央法規）
【参考書】	保育所保育指針（チャイルド本社） 保育所保育指針解説（フレーベル館）　最新保育小六法資料集（ミネルヴァ書房）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	次回講義予定の予習とノート整理などの復習

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
教育原理	勝見　恵子 保育園（保育士）18年勤務・幼稚園（幼稚園教諭）9年勤務	勝見

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。また、教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な考え方を理解する。教育制度や様々な取り組みについて理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①教育の意義、目的及び家庭福祉等との関わりを理解できる。 ②教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論を理解できる。 ③教育の制度を理解できる。 ④教育実践の様々な取り組みを理解できる。 ⑤生涯学習社会における教育の現状と課題を理解できる。	前に踏み出す力 考え抜く力 発達援助技術

【履修上の注意】毎回配布する資料を基に講義の振り返りを行うので、ノートは必ず毎回持参してください。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性　1	教育の意義を理解する。	個人
2	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性　2	教育の目的を理解する。	個人
3	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性　3	乳幼児期の教育の特性を理解する。	個人
4	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性　4	教育と子ども家庭福祉の関連性を理解する。	個人
5	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性　5	人間形成と家庭・地域・社会との関連性を理解する。	個人
6	教育の思想と歴史的変遷　1 諸外国の教育の思想と歴史	諸外国の教育の思想と歴史を理解する。	個人
7	教育の思想と歴史的変遷　1 諸外国の教育の思想と歴史	諸外国の教育思想を理解する。	個人
8	教育の思想と歴史的変遷　2 日本の教育の思想と歴史	日本の教育思想と歴史を理解する。	個人
9	教育の思想と歴史的変遷　3 子ども観と教育観の変遷	子ども観と教育観の変遷を理解する。	個人
10	教育制度の基礎　1 教育制度の基礎	教育制度の基本を理解する。	個人
11	教育制度の基礎　2 教育法規・教育行政の基礎	教育の法律と行政を理解する。	個人
12	教育制度の基礎　3 諸外国の教育制度	諸外国の教育制度を理解する。	個人
13	教育の実践　1 教育実践の基礎理論（内容・方法・計画と評価）	教育実践の基礎を理解する。	個人
14	教育の実践　2 教育実践の多様な取り組み	教育実践の多様な取り組みを理解する。	個人
15	生涯学習社会における教育の現状と課題 生涯学習社会と教育・現代の教育課題	生涯学習と教育を理解する。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	40%	レポート	20%
			小テスト	20%	授業への貢献	20%

【教科書】	新基本保育シリーズ2　教育原理（中央法規）
【参考書】	保育所保育指針（チャイルド本社） 保育所保育指針解説（フレーベル館）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書の一読予習と、ノート整理などの復習

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会福祉	佐藤　篤 一般	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

社会福祉の基礎的理解を目的とし，社会福祉の考え方・法制度・技術・歴史等の理解を深める。ソーシャルワーク演習も実施する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①社会福祉の基礎的理解を深めることができる。 ②社会福祉専門職としての自律性を体得する。 ③自らの行動指針を確立させることができる。	前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力

【履修上の注意】毎回の講義の終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってくること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	社会福祉とは何か理解する。 講義についての主旨説明	個人
2	社会福祉の思想・理念	現代社会について 社会福祉の考え方について考える。	個人
3	社会福祉の歴史	社会福祉の歴史について理解する。 社会生活の変遷を辿る。	個人
4	社会福祉の法律・制度	社会福祉基礎構造改革について 社会福祉制度改革の流れと現行制度の特長について理解する。	個人
5	社会福祉法について	社会福祉法について 社会福祉法の特徴について理解する。	個人
6	介護保険法について	介護保険法について 介護保険法の特徴について理解する。	個人
7	生活保護について	生活保護制度について 生活保護制度の特徴について理解する。	個人
8	年金制度と雇用について	年金制度と雇用について 高齢・障がいのある方の年金制度の理解と雇用の意味について理解する。	個人
9	人権保障に関する制度	日常生活自立支援事業と成年後見制度について 日常生活自立支援事業と成年後見制度の概要について理解する。	個人
10	ソーシャルワーク①	ソーシャルワークとは 自己覚知・受容と福祉の対象について理解する。	個人
11	ソーシャルワーク②	ソーシャルワークとは ケースワーク・グループワークの基礎について理解する。	個人・グループ
12	受容と共感	個性と多様性について 自身の個性を知る。	個人
13	専門対人援助関係の形成	専門職業的自分，私的自分 プロとアマチュアとは何か考える。	個人
14	地域福祉	地域福祉をキーワードに福祉の方向性について考える。 振り返りを行い、考えをまとめる。	個人
15	まとめ	講義のまとめを行う。	

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 20%	レポート 20%
			筆記試験 60%	

【教科書】	最新保育士養成講座第4巻　社会福祉(改訂2版)【全国社会福祉協議会】
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習は意識的に取り組みましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子ども家庭福祉	佐藤　篤 一般	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

子どもを取り巻く環境の現状と課題、より複雑化している現象等を取り上げ、これからの子ども家庭福祉の方向性について考察する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①子ども家庭福祉の「理念」を理解することができる。 ②子ども家庭福祉の「社会的諸サービス」を理解することができる。 ③子ども家庭福祉の「関連専門職」を理解することができる。	前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力

【履修上の注意】毎回の講義の終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってくること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	子ども家庭福祉とは何か理解する。 講義についての主旨説明	個人
2	子どもを取り巻く環境	家庭環境の変容やそれに伴う子どもへの影響 機能不全家族について理解する。	個人
3	子ども家庭福祉の理念	子ども家庭福祉関連法について理解する。 児童福祉法から各関連法について	個人
4	子ども家庭福祉の歴史①	子ども家庭福祉の成り立ち，戦前の子ども家庭福祉 歴史的背景を理解する。	個人
5	子ども家庭福祉の歴史②	戦後の子ども家庭福祉 歴史的背景を理解する。	個人
6	子ども家庭福祉の実施体制①	子ども家庭福祉に関連する各種機関について理解する。 児童相談所，福祉事務所等社会サービスについて	個人
7	子ども家庭福祉の実施体制②	子ども家庭福祉に関連する各種機関について理解する。 児童相談所，福祉事務所等社会サービスについて	個人
8	児童の権利に関する条約	子どもの権利について理解する。 条約等，子どもの権利を保障するものとは	個人
9	障害児福祉	障害児への福祉について理解する。 障害児のための福祉施策・サービスとは	個人
10	子ども家庭福祉の諸問題①	児童虐待と対策，関連法について 被虐待児，虐待者について考察する。	個人
11	子ども家庭福祉の諸問題②	非行児童、障害児のための福祉サービス 少年法，育児・介護休業法等について理解する。	個人
12	子ども家庭福祉の諸問題③	ひとり親家庭のための福祉サービスについて理解する。 母子及び父子並びに寡婦福祉法について理解する。	個人
13	子ども家庭福祉の財政状況	子ども家庭福祉を支える財源について理解する。 国，地方公共団体それぞれの役割とは	個人
14	子ども家庭福祉の専門職	子ども家庭福祉専門職，行政機関の専門職 関連分野の連携と調整について理解する。	個人
15	まとめ	講義のまとめを行う。	

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 20%	レポート 20%
			筆記試験 60%	

【教科書】	最新保育士養成講座第3巻　子ども家庭福祉 【全国社会福祉協議会】
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習は意識的に取り組みましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会的養護Ⅰ	緑川　浩子 一般	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】
社会的養護の対象となる子どもや各関係機関、家庭や周囲の環境に目を向け、どのような福祉ニーズがあるのかを理解する。

【学習目標(到達目標)】
①社会的養護の基礎的理解を深めることができる。
②保育専門職としての役割を理解する。
③様々な支援・援助方法について理解する。

【受講して得られる力】
前に踏み出す力
考え抜く力
チームで働く力

【履修上の注意】毎回の講義の終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってくること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	社会的養護の理念と概念	社会的養護とは何か 社会的養護の意味と基本理念を理解する	個人
2	社会的養護の歴史	社会的養護の歴史的変遷 諸外国と日本における社会的養護の歩みを理解する	個人
3	子どもの人権擁護と社会的養護	「児童の権利に関する条約」が示す子どもの人権擁護とは 「こども基本法」が示す子どもの人権擁護とは	個人
4	社会的養護の基本原則	家庭養育優先原則とは何か 社会的養護における施設養護と家庭養護を理解する	個人
5	保育士の倫理と責務	「保育士の倫理綱領」は何のためにあるのかを理解する 事例から専門職としての倫理を考慮する	個人
6	社会的養護の制度と法体系	社会的養護と措置制度の関係 措置制度と利用契約制度の意味とその背景を理解する	個人
7	社会的養護のしくみと実施体系	児童相談所の役割と概念 児童相談所の業務と児童相談の流れを理解する	個人
8	社会的養護の形態	施設養護の種類と家庭養護の種類 施設の種類と「里親制度」「養子縁組」について理解する	個人
9	社会的養護とソーシャルワーク	ソーシャルワークの基礎的知識を身に付ける ファミリーソーシャルワークの意味と必要性を理解する	個人
10	社会的養護の対象	社会的養護の対象となる児童の現状について 社会的養護の対象児童への具体的支援を考察する	個人
11	家庭養護と施設養護	家庭養護と施設養護の共通点と相違点を理解する なぜ国は「家庭養育優先の理念」を推奨しているのか	個人
12	社会的養護に関わる専門職	社会的養護に関わる専門職の専門性とは何か 社会的養護関係施設に配置される専門職	個人
13	施設等の運営管理	第1種社会的福祉事業と第2種社会福祉事業の違いとは 「苦情解決制度」と「第三者評価制度」を理解する	個人
14	被措置児童等の虐待防止	被措置児童等とは 被措置児童等虐待を予防する取り組みを理解する	個人
15	これからの社会的養護の課題	「社会的養護の課題と展望」の具体的な内容を理解する	

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 20%	レポート 20%
			筆記試験 60%	

【教科書】	新・基本保育シリーズ　社会的養護Ⅰ(中央法規)
【参考書】	最新保育小六法・資料集(ミネルヴァ書房)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習は意識的に取り組みましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育の心理学	小坂　徹 知的障害児入所施設(児童指導員)11年勤務	小坂

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもの理解を深めるとともに、乳幼児期の子どもの学びの過程や特性についての基礎知識を習得することで、保育者としての資質を涵養する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 ②生涯発達心理学の観点から乳幼児期の発達と次の発達段階への視点を理解する。 ③子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ④子どもの学びの過程や特性から保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。	前に踏み出す力 考え抜く力 発達援助技術

【履修上の注意】教科書・参考書は忘れずに持参すること。学習内容をよく考えること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	講義概要と学習目標について理解する。成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。	個人
2	子どもの発達や学習を理解することの意義	子どもの発達や学習を理解することが保育者としての日々の活動の基礎となることを理解する。	個人
3	子どもの発達や学習と環境	子どもの発達に影響する環境要因について主要な理論を通して学ぶ。	個人
4	子ども観・発達観・保育観	昨今の子ども観、発達観、保育観を学び、保育者としての自己理解を促進する。	個人
5	子ども理解と保育所保育	保育所保育指針を通して子どもを理解することの重要さと保育の在り方を理解する。	個人
6	共感的理解と関わり	カウンセリング理論の基礎から子どもや保護者との関わりと支援について学ぶ。	個人
7	社会情動的発達①愛着理論	愛着についての各種理論を通して人間関係の基礎や社会性の獲得について理解する。	個人
8	社会情動的発達②自己と情動	乳幼児期の自我の獲得と自己の理解過程、情動の発達と分化過程を理解する。	個人
9	身体機能と運動機能の発達	受精からの身体発達と神経系の発達に伴う運動機能の発達について学ぶ。	個人
10	認知機能の発達	認知に関する基礎を学び、子どもの認知の発達と時期ごとの特徴について理解する。	個人
11	言語の発達	言語能力の発達とコミュニケーション能力、思考や文字の獲得など言語面の発達を学ぶ。	個人
12	乳幼児期の学びに関わる理論	学びについての各種理論をもとに乳幼児期の学びを様々な角度から比較検討する。	個人
13	学びの過程と特性(人間関係)	乳幼児期における人間関係の発達と時期ごとの特徴を学び、保育場面での適切な関わり方を理解する。	個人
14	学びの過程と特性(環境)	保育場面における年齢別の事例から保育環境における子どもの学びを最大限に引き出す方法を考える。	個人
15	乳幼児期の学びを支える保育	保育現場において子どもの学びを保障し、自ら学ぶ力を引き出す環境構成や援助の仕方を理解する。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60%	レポート 20%
			受講態度 20%	

【教科書】	最新　保育士養成講座　第6巻　子どもの発達理解と援助(全社協)
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書・参考書を用いての予習復習。レポート課題の提出。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの理解と援助 ※実務経験のある教員の授業科目	小坂　徹 知的障害児入所施設(児童指導員)11年勤務	小坂

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

子どもの発達や学びに関する心理学の知見を保育現場で実践できるよう、保育者としての活用や具体的な援助行動を学ぶことで子どもについてさらなる理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。	考え抜く力
②子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。	チームで働く力
③子どもを理解するための具体的な方法を理解する。	発達援助技術
④子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。	生活援助技術
	環境構成技術

【履修上の注意】教科書・参考書は忘れずに持参すること。学習内容をよく考えること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	子どもの生活や遊び	乳児期の生活習慣の獲得と遊びについて学び、保育者の関わりや援助について実践的に考える。	個人
2	保育の人的環境としての保育者	保育者は子どもを取り巻く環境の構成要素としてその理想的な在り方を学ぶ。	個人
3	子ども相互の関わりと関係づくり	子どもと子どもの関わりについて、そのきっかけや継続性をもたらす際の保育者の役割を学ぶ。	個人
4	集団における経験と育ち	保育現場で生じる集団について、発達段階別の特性や活動における性質の違いを学ぶ。	個人
5	葛藤やつまずき	仲間との生活を通して経験する葛藤やつまずき等による影響を理解し、自我の発達を促す関わりを学ぶ。	個人
6	保育の環境の理解と構成	保育者は自らもその構成要素として子どもに適した環境を整えるべく、その構成を学ぶ。	個人
7	環境の変化や移行	家庭から保育の場への移行、生活の中の場面の切り替え、その経験と日々の適応を促す援助について学ぶ。	個人
8	観察・記録・省察・評価	子どもを理解するための視点から日々の観察、記録、省察と評価の活用を学ぶ。	個人
9	職員間の協働と情報共有	より良い保育実践へ向けて職員同士の協働、多職種連携と情報共有の重要性を学ぶ。	個人
10	保護者との情報共有	保育現場と家庭が共有すべき情報とその共有方法について学ぶ。	個人
11	生活・生育環境とその影響	子どもを取り巻く環境の昨今の変化とその影響、この先の変化への対応を学ぶ。	個人
12	子どもの健康に関わる問題	乳幼児期に明らかになる各種障害について、その特徴と支援について学ぶ。	個人
13	発達の課題に応じた援助と関わり	発達課題についての理論を基に、段階別の課題に応じた援助と関わりについて学ぶ。	個人
14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	子ども一人一人のニーズについての理解と個別の配慮・支援方法、法制度について学ぶ。	個人
15	発達の連続性と就学への支援	就学へ向けて先を見通した保育の実践と幼保小連携、保護者支援について学ぶ。	個人

期末試験		評価方法	課題の達成度	60%	レポート	20%
			受講態度	20%		

【教科書】	最新　保育士養成講座　第6巻　子どもの発達理解と援助(全社協)
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書・参考書を用いての予習復習。レポート課題の提出。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの保健	星　亜矢子 一般	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、疾病とその予防法について理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、説明できる。 ②子どもの身体的な発育・発達と保健について説明できる。 ③子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明できる。 ④子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協同の下での適切な対応について理解し説明できる。	発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 相談支援技術 コミュニケーション技術

【履修上の注意】履修したことを振り返りながら、次回の講義内容を通読してくること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	子どもの心身の健康と保健の意義	保健活動の意義と目的、健康概念と健康指標について理解する。	個人
2	子どもの心身の健康と保健の意義	現代社会における子どもの健康に関する現状課題、地域における保健活動と子どもの虐待防止について理解する。	個人
3	子どもの身体発育・発達と保健	身体発育と保健についての知識を身につける。	個人
4	子どもの身体発育・発達と保健	運動機能の発達と保健について理解する。	個人
5	子どもの身体発育・発達と保健	生理機能発達と保健について理解する。	個人
6	子どもの心身の健康状態とその把握	健康状態の観察、心身の不調などの早期発見について(体温、脈拍数、呼吸数のはかり方)の知識を身につける。	グループ
7	子どもの心身の健康状態とその把握	発育・発達の把握と健康診断、保護者との情報共有について(身体測定、発育評価方法)の知識を身につける。	グループ
8	子どもの疾病の予防および適切な対応	感染症について理解する。	個人
9	子どもの疾病の予防および適切な対応	アレルギー性疾患について理解する。	個人
10	子どもの疾病の予防および適切な対応	口と歯の健康、先天性疾患について理解する。	個人
11	子どもの疾病の予防および適切な対応	循環器、呼吸器、消化器疾患について理解する。	個人
12	子どもの疾病の予防および適切な対応	脳、神経、目、鼻、耳、運動器、皮膚の病気について理解する。	個人
13	子どもの疾病の予防および適切な対応	泌尿器、内分泌、血液、こころの病気について理解する。	個人
14	子どものこころとからだのこと	「虐待」―この現代的問題に立ち向かう　脳から見た「健やかな育ち」について理解する。	個人
15	まとめ	前期学習のまとめを行う。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度　60% 受講態度　40%

【教科書】	子どもの保健(学建書院) 子どもの健康と安全演習ノート　改定第3版(診断と治療社)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】現在、マスメディア等で子どもの健康についてどのようなことが話題になっているか関心を示す。

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育の計画と評価 ※実務経験のある教員の授業科目	渡邉　佐江子 保育園（保育士）16年勤務	渡邉

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

保育の内容の質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。また、全体的な計画と指導計画について、その意義と方法を理解する。子どもの理解に基づく保育の過程について、その全体構造を捉え、理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 ②全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ③子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体の構造をとらえ理解する。	考え抜く力 発達援助技術 遊びの展開技術

【履修上の注意】保育所保育指針及び保育所保育指針解説書を熟読すること。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	講義内容や履修上の注意点を理解する。	個人
2	保育の計画と評価　基本1	カリキュラムの基礎理論を理解する。	個人
3	保育の計画と評価　基本2	保育における計画と評価の意義を理解する。	個人
4	保育の計画と評価　基本3	子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の循環による保育の質の向上を理解する。	個人
5	保育所における保育の計画1	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景を理解する。	個人
6	保育所における保育の計画2	保育所保育指針における保育の目標と計画の基本的考え方を理解する。	個人
7	保育所における保育の計画3	全体的な計画について学び、指導計画の関係性を理解する。	個人
8	保育の計画と評価1	長期的指導計画の作成について理解する。	個人
9	保育の計画と評価2	短期的指導計画の作成について理解する。	個人
10	保育の計画と評価3	実際に短期的指導計画（日案：部分実習）を作成してみる。	個人
11	保育の計画と評価4	実際に作成した計画（日案：部分実習）に沿って演習してみる。	個人
12	保育の計画と評価5	実際に実践した保育の記録及び省察を演習してみる。	個人
13	保育所における保育の評価1	保育士及び保育所の自己評価を理解する。	個人
14	保育所における保育の評価2	保育の質向上に向けた改善の取組を理解する。	個人
15	保育所における保育の評価3	生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録を理解する。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60%	受講態度 20%
			課題の達成度 20%	

【教科書】	保育所保育指針（チャイルド本社） 保育所保育指針解説（フレーベル館）
【参考書】	学びつづける保育者をめざす実習の本（萌文書林）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】プリントを整理し、課題に取り組むことで復習・予習につなげること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育内容総論Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目	勝見　恵子 保育園（保育士）18年勤務・幼稚園（幼稚園教諭）9年勤務	勝見

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

保育所保育指針「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」と「保育内容」の関連性を理解する。また、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、実践に即した保育の過程につなげて理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①保育所保育指針第1章「総則」と第2章「保育の内容」の関連を理解できる。	考え抜く力
②保育所保育指針を基に、保育の全体的な構造を理解できる。	発達援助技術
③子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解できる。	生活援助技術
④保育の多様な展開について具体的に理解できる。	遊びの展開技術

【履修上の注意】毎回資料をお渡しいたしますのでファイルを用意し、授業には必ず持参してください。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	講義概要や学習目標を理解する。 保育所保育指針とは何かを理解する。	個人
2	保育の全体構造と保育内容　1	保育所保育指針に基づく保育の全体構造について理解する。	個人
3	保育の全体構造と保育内容　2	保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する。（養護）	個人
4	保育の全体構造と保育内容　3	保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する。（教育）	個人
5	保育の全体構造と保育内容　4	保育内容の歴史的変還とその社会的背景について理解する。	グループ
6	保育の基本を踏まえた保育内容の展開　1	子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方を理解する。	グループ
7	保育の基本を踏まえた保育内容の展開　2	養護及び教育が一体的に展開する保育を理解する。	グループ
8	保育の基本を踏まえた保育内容の展開　3	子どもの主体性を尊重する保育を理解する。	グループ
9	保育の基本を踏まえた保育内容の展開　4	環境を通して行う保育を理解する。	グループ
10	保育の基本を踏まえた保育内容の展開　5	生活や遊びによる総合的な保育を理解する。	グループ
11	保育の基本を踏まえた保育内容の展開　6	個と集団の発達を踏まえた保育を理解する。	グループ
12	保育の基本を踏まえた保育内容の展開　7	家庭や地域、小学校との連携を踏まえた保育を理解する。	グループ
13	保育の多様な展開　1	長時間の保育（子育て支援について）を理解する。	グループ
14	保育の多様な展開　2	特別な配慮を要する子どもの保育を理解する。	グループ
15	保育の多様な展開　3	多文化共生の保育を理解する。	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　60% 課題の達成度　20%	受講態度　20%

【教科書】	保育所保育指針（チャイルド本社） 保育所保育指針解説（フレーベル館）フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画（萌林書林）
【参考書】	保育内容総論Ⅰ（中央法規）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】事前学習の提示について保育所保育指針やネット等で調べて授業に臨む。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
健康指導法 ※実務経験のある教員の授業科目	矢吹　ヒロ子 保育園（保育士）25年勤務	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

保育の内容・方法に関する科目として位置づけ、保育の基本をどう考えれば良いのか、生きる力の基礎となる豊かな体験をどのようにして保育に取り入れていくのかを理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①子ども達の生きる力の基礎を培うには、どのような内容や方法があるのかを理解する。 ②子ども達の心と体の健康を保つためには、どのような園・所生活にしていくべきかを考える。 ③保育環境や具体的な援助の大切さは何かを主体的に考える力を身に付けることが出来る。	考え抜く力 遊びの展開技術 コミュニケーション技術

【履修上の注意】予習復習してから授業に望みましょう。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション 領域「健康」の理解	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育を参照に領域「健康」について理解する。	個人
2	子どもの発育と発達	乳幼児期の身体的、精神的発達の特徴と発育発達の過程について理解する。	個人
3	発達を踏まえた健康支援	発達過程に応じた健康支援と個人差への配慮、保育者の関わりについて理解する。	個人
4	子どもの心の健康	愛着形成と情緒の安定、心の健康を支える保育者の援助について理解する。	個人
5	生活習慣と健康①食事	食事の意義と食育、望ましい食習慣の形成について理解する。	個人
6	生活習慣と健康②睡眠・排泄・清潔	睡眠、排泄、清潔など基本的な生活習慣の形成と援助方法について理解する。	個人
7	生活リズムと健康	生活リズムの形成と健康の関係、家庭と連携について理解する。	個人
8	運動と健康	身体を動かす遊びや運動の意義と健康な身体つくりについて理解する。	個人
9	安全管理と事故防止	保育における事故防止、安全管理、安全教育の基本について理解する。	個人
10	健康と環境	保育環境や自然との関わりが心身の健康に与える影響について理解する。	個人
11	子どもの病気と予防	感染予防や生活習慣の乱れなど現代的健康課題と保育現場での対応について理解する。	個人
12	健康指導案作成	子どもの発達に応じた健康指導のねらいと内容を考え、指導案作成の方法について理解を深める。	個人
13	健康指導教材の製作①	健康や生活習慣をテーマとした視覚的教材を構想し、製作を行い、教材作成の工夫について理解を深める。	個人
14	健康指導教材の作成②	視覚教材の完成に向けて製作を進め、子どもに分かりやすく伝える工夫について理解を深める。	個人
15	教材発表と振り返り	製作した教材と指導案を発表し、健康指導の実践と教材活用について理解を深める。	個人

期末試験	筆記試験・実技試験	評価方法	実技試験 40%	受講態度 20%
			課題の達成度 40%	

【教科書】	子どもと健康(みらい) 保育所保育指針（チャイルド本社）　保育所保育指針解説（フレーベル館）
【参考書】	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】保育所保育指針・幼稚園教育要項、認定こども園保育指針の「健康」のねらい、内容の取り扱いを理解しましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
人間関係指導法 ※実務経験のある教員の授業科目	勝見　恵子 保育園（保育士）18年勤務・幼稚園（幼稚園教諭）9年勤務	勝見

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

子どもの理解を深め、他の人々と親しみ、支え合って生活するために自立心を育て、人と関わる力を養うための援助を習得する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
① 領域「人間関係」のねらい、内容について理解し、説明することができる。	発達援助技術
② 乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる問題について理解することができる。	生活援助技術
③ 子どもの生活や遊びに対して保育内容や援助について学び、保育実践に活用することができる。	環境構成技術
④ 事例を通して保育者の援助について理解することができる。	遊びの展開技術
	コミュニケーション技術

【履修上の注意】教科書やファイルなど忘れ物がないよう気を付けましょう。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション 領域「人間関係」とは	領域「人間関係」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解する。	個人
2	子どもの人間関係の発達	0歳以上3歳未満児の人間関係の発達を理解する。 （愛着・自己主張・自己発揮）	個人
3	子どもの人間関係の発達	3歳以上児の子どもの人間関係の発達を理解する。 （自己調整力・自己発揮と自己抑制）	グループ
4	保育者の役割と援助	乳幼児の子どもの人とかかわる力を育む保育者のかかわりについて理解する。	グループ
5	保育者の役割と援助	自立心を育むために適切で多様な環境および援助について学ぶ。	グループ
6	保育者の役割と援助	幼児期に育てたい道徳性・規範意識の芽生えについて理解する。	グループ
7	保育者の役割と援助	個の育ちと集団の育ちを踏まえ、協同性を育む保育者の役割を理解する。	グループ
8	遊びと人間関係の発達	遊びから育まれる人とかかわる力について子どもの発達を踏まえ理解する。	グループ
9	遊びの中で育つ「人間関係」	人と関わる力が育まれる遊びを考え、指導計画を作成する。	グループ
10	遊びの中で育つ「人間関係」	指導計画を基に模擬保育を行う。	グループ
11	遊びの中で育つ「人間関係」	指導計画を基に模擬保育を行う。	グループ
12	遊びの中で育つ「人間関係」	特別な配慮を必要とする子ども一人一人を大切にする保育について理解する。	グループ
13	保育者の役割と援助	家庭・地域など子どもを取り巻く人間関係と子どもの育ちとの関係や社会との連携と保育者の役割について理解する。	グループ
14	保育者の役割と援助	ICTを活用した保育の実際について理解する。	グループ
15	保育者の役割と援助	社会問題を踏まえ、これからの保育者に求められる専門性について理解する。	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	60%	受講態度 20%
			課題の達成度	20%	

【教科書】	保育内容「人間関係」と指導法　考える・調べる・学び合う（中央法規） 保育所保育指針（チャイルド本社）　保育所保育指針解説（フレーベル館）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	体験学習などで出会った子どもの姿や保育者の援助を観察すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
環境指導法 ※実務経験のある教員の授業科目	田母神　知加子 保育所（保育士）9年勤務・幼稚園（幼稚園教諭）2年勤務	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

養護と教育にかかわる保育の内容を総合的に理解しつつ、子どもの発達を、主に環境の領域の観点から捉え、周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う発達の援助について具体的に理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①子どもの発達を環境の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に理解する。	発達援助技術
②子どもが好奇心や探求心をもってかかわりたくなる環境をどのようにつくるか理解する。	生活援助技術
③子どもが環境とかかわり、生活に取り入れていこうとする力をどのように養うか理解する。	環境構成技術
④幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて保育を構想し、具体的な指導ができる。	遊びの展開技術
	コミュニケーション技術

【履修上の注意】予習をしてから、授業に臨みましょう。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	子どもと環境について学ぼう	保育における子どもの環境を理解する。	個人
2	保育内容・領域「環境」について学ぼう①	保育・幼児教育の基本について理解する。	個人
3	保育内容・領域「環境」について学ぼう②	環境の「ねらい」・「内容」・「内容の取扱い」について理解する。	個人
4	保育内容・領域「環境」の展開について学ぼう①	乳児保育の「3つの視点の展開」について理解する。	個人
5	保育内容・領域「環境」の展開について学ぼう②	未満児・以上児の領域における「環境の展開」について理解する。	個人
6	保育の過程について学ぼう①	子ども理解と指導計画の作成を理解する。	個人
7	保育の過程について学ぼう②	保育の実践と評価・省察について理解する。	個人
8	ものとのかかわりの実践について学ぼう①	保育とものの関りについて理解する。	個人
9	ものとのかかわりの実践について学ぼう②	乳児・未満児・以上児とさまざまな物とのかかわりについて理解する。	個人
10	自然とのかかわりの実践について学ぼう①	様々な遊びや活動が広がる植物とのかかわりや、生命の尊	グループ
11	自然とのかかわりの実践について学ぼう②	多様な遊びや活動が広がる植物とのかかわりや、生命の尊さに気付き、生き物をいたわり大切にするかかわりを理解する。	グループ
12	数量・図形とのかかわりの実践について学ぼう	子どもの生活、子どもの遊び、子どもの発達と数量・図形について理解する。	グループ
13	標識・文字とのかかわりの実践について学ぼう	子どもの必要性に基づく標識・文字について理解する。	グループ
14	身近な施設・地域、さまざまな文化とのかかわりの実践について学ぼう	日々の保育からつながる地域の人とのかかわりについて理解する。	グループ
15	行事とのかかわりの実践について学ぼう	保育における行事の意義や留意点について理解する。	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 70%
			受講態度 30%

【教科書】	実践例から学びを深める　保育内容・領域　環境指導法(わかば社) 保育所保育指針（チャイルド本社）　　保育所保育指針解説（フレーベル館）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	日頃から、季節の移り変わりや、地域の行事に興味関心を持ちましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの生活と遊び（表現と運動） ※実務経験のある教員の授業科目	田母神　知加子 保育所（保育士）9年勤務・幼稚園（幼稚園教諭）2年勤務	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

運動遊びと子どもの成長と子どもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面が子どもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し、具体的な援助方法を習得する。同時に、子どもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。

【学習目標（到達目標）】

①子どもが主体的に曽比に取り組める援助方法を習得する。
②演習で取り扱う運動あそびと成長発達の関係を理解する。
③運動遊びと運動機能・体力の関係を理解する。
④創作活動を通してチームの中で互いに協力し、コミュニケーション技術を習得する。
⑤楽しく安全に遊べる環境づくりを学ぶ。

【受講して得られる力】

遊びの展開技術
コミュニケーション技術
チームで働く力

【履修上の注意】運動着・シューズの着用と水分補給のための飲料を持参しましょう。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	学習内容を理解する。幼児期の運動遊びの体験の振り返りをする。	個人
2	自然を素材とする遊びや戸外での遊び 固定遊具を使った遊び	自然を素材とする遊びの知識と技術を把握する。固定遊具の遊びの種類と遊び方について子どもの成長発達に与える内容を理解する。	個人
3	有酸素運動・ストレッチ運動① リズムダンス①	有酸素運動やストレッチ体操を通して身体を整え、音楽に合わせてダンス表現を楽しむ。	個人
4	遊具（操作性遊具）を使った遊び （様々なボール遊び）	ボールを使用した遊びの種類や、楽しく安全に協力して遊びを支援する方法を学び、遊びの技術を習得する。安全性の配慮を学ぶ。	グループ
5	有酸素運動・ストレッチ運動② リズムダンス②	有酸素運動やストレッチ体操を通して身体を整え、音楽に合わせてダンス表現を楽しむ。	個人
6	遊具を使った遊びⅡ （フープ、輪、ロープ、新聞紙、タオルなど）	転がす、回す、投げる、くぐるなどの技術を習得する。また、これらの運動遊びで調整力が育まれることやゲーム性を取り入れることで競争意識や社会性が形成されることを理解する。	グループ
7	有酸素運動・ストレッチ運動③ リズムダンス③	有酸素運動やストレッチ体操を通して身体を整え、音楽に合わせてダンス表現を楽しむ。	個人
8	大型遊具を使った遊具 （マット、跳び箱、平均台など）	多様な運動を展開することで子どもの運動への興味関心を高め、柔軟性、協応性、巧緻性などが育まれることを理解する。安全性の配慮を学ぶ。	グループ
9	有酸素運動・ストレッチ運動④ 創作ダンス①	想像しながら身体を動かすことで、豊かな創造性が身に付き器用な身のこなしができるようになる。	グループ
10	サーキット遊び	遊具を組み合わせることで創造性を養うことができることや、相手への思いやりの心や社会性が育まれることを理解する。安全性の配慮を学ぶ。	グループ
11	有酸素運動・ストレッチ運動⑤ 創作ダンス②	想像しながら身体を動かすことで、豊かな創造性が身に付き器用な身のこなしができるようになる。	グループ
12	身体表現による伝承遊び① （お手玉、おはじき、ビー玉、あやとり、けん玉、コマ回し）	伝承遊びをとおして、左右の手や指を使うことで脳の発達に効果的であることや、集中する力が養成されることを理解する。	グループ
13	有酸素運動・ストレッチ運動⑥ 創作ダンス③	想像しながら身体を動かすことで、豊かな創造性が身に付き器用な身のこなしができるようになる。	グループ
14	身体表現による伝承遊び② （鬼ごっこ、ケンケンパー、縄跳び、ゴム遊び、まりつき）	伝承遊びをとおして、子どもの思考力や役割意識・規範意識が養われることを理解する。	グループ
15	有酸素運動・ストレッチ運動⑦ 創作ダンス④	想像しながら身体を動かすことで、豊かな創造性が身に付き器用な身のこなしができるようになる。	グループ
期末試験	創作ダンス発表	評価方法	課題の達成度 40% 授業への貢献 30% 受講態度 30%

【教科書】	特になし
【参考書】	保育所保育指針（チャイルド本社） 保育所保育指針解説（フレーベル館）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】幼児体操や幼児ダンスは、反復練習をしっかり行いましょう。

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの生活と遊び(音楽とリズム)Ⅰ	熊田　桂子 一般	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

子どもの音楽表現を豊かな活動へと展開するために必要な音楽の基本的知識と技術を身につける。そのために、音楽基礎理論、声楽、鍵盤楽器の基礎的な技能を習得する。

【学習目標(到達目標)】

①音楽を構成する要素の基礎知識を身につける。
②保育に必要な楽曲の楽譜を読むために必要な知識を身につける。
③季節や生活に関わる歌やわらべ歌を覚え、歌えるようにする。
④保育に関わるわらべ歌の簡単なピアノ伴奏を弾けるようにする。

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
遊びの展開技術

【履修上の注意】実技の練習をできる限り毎日するようにしてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	授業内容、目的、授業の進め方について理解する。自分に必要な音楽活動に関わる知識や技術について理解する。	個人
2	音楽の基礎　生活のうた	楽譜の譜表と音名について理解する。歌う時の姿勢と発声の仕方について理解する。ピアノを弾くときの姿勢と鍵盤の位置について学ぶ。	個人
3	10月のうた①	音符と休符について理解する。10月のうたを歌う。ピアノの基礎練習と簡単な子どもの歌一曲を練習する。	個人
4	10月のうた②	拍子とリズムについて学び、リズムを読めるようにする。10月のうたを歌う。ピアノを両手で弾く。	個人
5	11月のうた①	拍を体で感じながら、リズム打ちをできるようにする。輪唱と11月のうたを歌う。簡単な伴奏でピアノを弾く練習をする。	個人
6	11月のうた②	音名、変化記号について理解する。11月のうたを歌う。課題の曲をピアノで弾けるように練習する。	個人
7	12月のうた①	コードネームの仕組みについて理解する。ピアノ伴奏をコードネームで弾いてみる。12月のうたを歌う。	個人
8	12月のうた②	コードネームを見て、簡単な和音を弾けるようにする。12月のうたを歌う。手遊びうたを歌う。	個人
9	1月のうた①	コードネームを見て、いろいろな伴奏のパターンを練習する。1月のうたを歌う。振付をつけたうたを歌う。	個人
10	1月のうた②	和音の構成と主要三和音について学ぶ。1月のうたを歌う。簡単なわらべ歌に簡易楽器演奏をつける。	グループ
11	2月のうた①	楽譜に関わる様々な記号や用語について学ぶ。2月のうたを歌う。簡単な子どもの歌に簡易楽器演奏をつける。	グループ
12	2月のうた②	楽譜に関わる様々な記号や用語について学ぶ。2月のうたを歌う。子どもの曲をピアノで練習する。	個人
13	3月のうた①	いろいろなリズムを理解する。3月のうたを歌う。実技発表に向けて練習する。	個人
14	3月のうた②	3月のうたを歌う。実技発表に向けて課題曲を練習する。	個人
15	課題練習	実技発表に向けて練習する。	個人

期末試験		評価方法				
	筆記試験		受講態度	10%	筆記試験	40%
	実技(ピアノ)試験		小テスト	10%	実技試験	40%

【教科書】	幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育(教育芸術社)
	ジュニアクラスの楽典　テキスト・ワーク(デプロMP)
【参考書】	いろいろな伴奏で弾ける選曲　こどものうた100(チャイルド社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ピアノの練習を少しでもできるだけ毎日すること。楽典のテキスト・ワークの授業で行った内容を進めておくこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	メール連絡　kumachan@y2.dion.ne.jp

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの生活と遊び(感性と創造)	青木　一則 一般	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

保育内容を理解し、子どもの感性と創造力を豊かにするための必要な基本的知識と技術を習得する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験を通して、様々な用具、素材や教材に触れ、保育環境の構成や子どもの感性と創造を育む表現活動に関する保育技術を習得する。

【学習目標(到達目標)】

①保育の内容を理解し、子どもの遊びを通して感性と想像力を豊かにするための必要な知識や技術を習得する。

②造形表現活動に関する知識や技術を習得する。

③表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を身につける。

④ケースを詳細に分析・検討し、問題解決の過程や方法を見つけることができるようになる。

【受講して得られる力】

遊びの展開技術
コミュニケーション技術
環境構成技術
チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ガイダンス	保育における遊びの役割　保育における感性と創造の重要性を理解し、全体の学びの方法論を習得する。	個人
2	ドローイングトレーニング1 「ネガポジ画」	絵を描くコツの一つを体験する。	個人
3	ドローイングトレーニング2 「五感のアナログ画」	感覚の表現と描画材	個人
4	ドローイングトレーニング3 「リンゴの量感画」	工夫されたプログラムから表現を考える。	個人
5	保育のコミュニケーション 「鑑賞会」	作品を見ることと評価としての言語応答について考える。	個人
6	アートコミュニケーション 「2人で描く」	非言語コミュニケーションとしての造形	個人
7	教材研究1＜遊び＞	ボディペインティング・モノプリントを行う。	個人
8	教材研究2＜絵画＞	アクリル絵の具「花火」	グループ
9	教材研究3＜絵画＞	「ピカソ風に顔を描く」を体験する。	グループ
10	教材研究＜造形遊び＞	紙での造形遊びを体験する。	グループ
11	遊びと創造表現グループワーク①	遊び計画案・グループワークⅠ　遊び計画における作業グループの構成と役割設定を行う。	グループ
12	遊びと創造表現グループワーク②	遊び計画案・グループワークⅡ　発達と遊びについてこれまでの学習を基にした意見を出し合い、相互学習及び検証を行う。	グループ
13	遊びと創造表現プレゼンテーション①	遊び計画案・プレゼンテーション－実施　ロールプレイング形式のプレゼンテーションを行う。	グループ
14	遊びと創造表現プレゼンテーション②	遊び計画案・プレゼンテーション－実施　ロールプレイング形式のプレゼンテーションを行う。	グループ
15	総括(遊びのシェア)	遊び計画案・プレゼンテーション―学びのシェア　これまでの総括を行い、意見交換や協議などにおいて学びのシェアを行う。	グループ

期末試験	レポート	評価方法	課題の達成度　70%	受講態度　30%

【教科書】	講義内で必要なコピーを配布します。
【参考書】	講義内で必要なコピーを配布します。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	ロールプレイングではグループによる事前打ち合わせ、参考作品製作、プレゼンのリハーサル、反省会など予習復習すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの生活と遊び（言葉と児童文化財） ※実務経験のある教員の授業科目	鈴木　恵夏 保育園（保育士）5年勤務	鈴木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

昔から受け継がれている遊びや、絵本、紙芝居など様々な児童文化財に触れ、実践を通して保育技術を習得する。また、児童文化財と子どもの育ちとの関わりについて考え、保育者の役割を理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
① 子どもの発達と児童文化財の知識や保育技術を身に付けることが出来る。	発達援助技術
② 児童文化財に親しみ保育環境を考えることが出来る。	前に踏み出す力
③ 保育教材を製作し、保育の展開について理解する。	環境構成技術
④ 保育に活かせる遊びを身に付けることが出来る。	遊びの展開技術
	コミュニケーション技術

【履修上の注意】授業で使用するものを事前にお知らせいたしますので、忘れものがないように気を付けてください。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション 児童文化財とは	授業内容、目的、授業の進め方について理解する。 児童文化財について理解をする。	個人
2	保育に活かす児童文化財 （1）絵本	絵本の特色や読み聞かせのポイントについて理解する。	個人
3	演習 「絵本の読み聞かせ」	読み聞かせの技術を身に付ける。	グループ
4	保育に活かす児童文化財 （2）紙芝居	紙芝居の特色や、紙芝居を演じるときのポイントについて理解する。	個人
5	演習 「紙芝居」	紙芝居の演じ方の技術を身に付ける。	グループ
6	保育に活かす児童文化財 （3）ペープサート	ペープサートの特色や作り方、演じ方について理解する。	個人
7	教材研究「ペープサート」	作り方を確認しながら、ペープサートを製作をする。	グループ
8	演習「ペープサート」	子どもの前で演じる時のポイントについて確認しながら、作ったペープサートを演じ、実践力を身に付ける。	グループ
9	保育に活かす児童文化財 （4）パネルシアター	パネルシアターの特色や作り方、演じ方について理解する。	個人
10	教材研究「パネルシアター」	作り方を確認しながら、パネルシアターを製作をする。	グループ
11	演習「パネルシアター」	子どもの前で演じる時のポイントについて確認しながら、作ったパネルシアターを演じ、実践力を身に付ける。	グループ
12	児童文化財の保育への展開（1） 保育教材の製作①	子どもが楽しめる工夫や安全面への配慮をしながら、保育教材の製作を行なう。	個人
13	児童文化財の保育への展開（2） 保育教材の製作②	子どもが楽しめる工夫や安全面への配慮をしながら、保育教材の製作を行なう。	個人
14	児童文化財の保育への展開（3） 保育教材を演じるときの実践案作成	作った保育教材を子どもの前で演じるときの実践案を作成する。	個人
15	児童文化財の保育への展開（4） 保育教材を用いた模擬保育	作成した実践案を用いた模擬保育の実践をする。	グループ

期末試験	評価方法				
実技試験	実技試験	40%	課題の達成度	30%	
	受講態度	30%			

【教科書】	保育所保育指針（チャイルド本社） 保育者をめざす人の保育内容「言葉」第2版（みらい）
【参考書】	0～5歳児の手あそび・うたあそび（ナツメ社） 保育所保育指針解説（フレーベル館）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】絵本や紙芝居など、沢山の児童文化財に触れてください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
乳児保育Ⅰ ※ 実務経験のある教員の授業科目	矢吹 ヒロ子 保育園（保育士）25年勤務	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

乳児保育の意義・概念と現状、乳児保育の基本的な知識について学ぶ。人として人格形成の基礎を培う重要な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者との連携や子育て支援について総合的に理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①乳児期の意義、目的、役割と背景や歴史的変遷を理解する。 ②多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について学び、知識を得る。 ③3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育の内容と保健・衛生・安全管理について理解する。 ④乳児保育における職員間・保護者や地域の関係機関との連携・協働について理解する。 ⑤乳児保育における保育の計画・記録・評価について理解する。	発達援助技術 生活援助技術 コミュニケーション技術

【履修上の注意】自分の考えを積極的に発言したり、意見を聞いたりして考えることを大切にしてください。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	講義概要と学習目標、成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。乳児保育の基本について理解する。	個人
2	乳児保育の意義・目的と役割 乳児保育の歴史的変遷および社会的状況と課題	乳児保育の役割と機能を理解する。 乳児保育の背景や歴史的変遷、子育ての家庭の現状と課題について理解する。	個人
3	乳児保育における養護と教育	養護と教育の一体性について理解する。	個人
4	保育所における乳児保育	保育所、認定こども園における乳児保育について理解する。	個人
5	保育所以外（乳児院）における乳児保育	乳児院における乳児保育について理解する。	個人
6	地域型保育等における乳児保育	地域型保育事業について理解する。	個人
7	乳児（0歳児）の発達と保育内容	乳児の発達過程を理解する。 乳児の保育のねらいおよび内容を理解する。	個人
8	1歳以上3歳未満児の発達と保育内容	1歳以上3歳未満児の発達過程を理解する。 1歳以上3歳未満児の保育のねらいおよび内容を理解する。	個人
9	3歳未満児の発育・発達	0～3歳児の身体・生理的機能の発達、言葉・コミュニケーションの発達、社会性の発達を理解する。	グループ
10	乳児保育の生活の基本と配慮	3歳未満児の基本的生活習慣を理解する。 保育者の配慮について学ぶ。	グループ
11	0歳児の遊びと環境	0歳児の発達を踏まえた遊びと環境について学ぶ。	個人
12	1歳～3歳児の遊びと環境	1歳～3歳児の発達を踏まえた遊びと環境について学ぶ。	個人
13	乳児保育における計画	保育における計画・記録・評価の意義を理解する。 保育のPDCAサイクルを理解する。	個人
14	職員間の連携・協働	職員間の連携・協働について理解する。 他職種の連携について知る。	個人
15	保護者との連携・協働	保護者との連携・協働について理解する。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60%	受講態度 20%
			課題の達成度 20%	

【教科書】	ワークで学ぶ　乳児保育Ⅰ・Ⅱ（みらい）
【参考書】	保育所保育指針（チャイルド本社） 保育所保育指針解説（フレーベル館）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義の予習（教科書の該当ページを一読）や課題に意欲的取り組んでいきましょう。

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
乳児保育Ⅱ ※ 実務経験のある教員の授業科目	矢吹 ヒロ子 保育園（保育士）25年勤務	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

乳児保育Ⅰで学んだ乳児保育の基本や養護と教育について、演習を通して理解する。
乳児期の発達を踏まえた生活と遊びの援助、健康・安全への保育者の配慮を演習しながら習得する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえ、実践的な援助や関わり方を習得する。 ②3歳未満児の発達を踏まえながら子どもの興味・関心、発達をを促す遊びを実践する。 ③指導案を理解し、映像から乳児保育の実際を具体的に学び、実践力を養う。 ④乳児の健康・安全管理を踏まえた保育の実際を理解し、実践的な保育力を養う。 ⑤乳児保育における様々な連携を理解する。	発達援助技術 生活援助技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術

【履修上の注意】演習やグループ学習が多いので、意欲的に参加してください。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション 保育者の役割	講義概要と学習目標について理解する。 養護と教育の一体性を事例から具体的に理解する。	個人
2	子どもと保育者との関係性	個々の子どもに応じた援助について理解する。 受容的・応答的関わりを事例から考える。	個人
3	個々の子どもの体験と育ち	子どもの主体性を尊重した保育を事例から考える。 子どもの体験と学びの芽生えの関係性を理解する。	個人
4	3歳未満児の保育における生活の援助①（調乳）	発育・発達を踏まえた生活の援助の実際を学ぶ。	グループ
5	3歳未満児の保育における生活の援助②（おむつ替え）	発育・発達を踏まえた生活の援助の実際を学ぶ。	グループ
6	3歳未満児の保育における生活の援助③（睡眠）	発育・発達を踏まえた生活の援助の実際を学ぶ。	グループ
7	3歳未満児の保育における生活の援助④（着脱）	発育・発達を踏まえた生活の援助の実際を学ぶ。	グループ
8	3歳未満児の保育における生活の援助⑤（沐浴）	発育・発達を踏まえた生活の援助の実際を学ぶ。	グループ
9	3歳未満児の保育における遊びの援助①（体を動かす遊び）	映像や事例を通して子どもの姿を捉え、保育所保育指針を基に考察し理解する。	グループ
10	3歳未満児の保育における遊びの援助②（ものと関わる遊び）	映像や事例を通して遊びの意味や環境構成について保育所保育指針を基に考察し理解する。	グループ
11	3歳未満児の保育における遊びの援助③（人と関わる遊び）	映像や事例を通して保育者との関係性や援助の意図について保育所保育指針を基に考察する。	個人
12	乳児保育における健康・安全	集団生活における健康と安全管理の配慮について理解する。 全体的な配慮および個別的な配慮の理解を深める。	個人
13	乳児保育における計画と評価	長期的な計画、短期的な計画について理解する。 個別計画の意義と作成の際の留意点について学ぶ。	個人
14	乳児保育における具体的な連携	保護者との連携について具体的に理解する。 連絡帳の記入の仕方を実践する。	個人
15	乳児保育における具体的な連携	職員間、保護者、地域との連携の重要性を理解する。 おたよりの作成を実践する。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60%	受講態度 20%
			課題の達成度 20%	

【教科書】	ワークで学ぶ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ（みらい）
【参考書】	保育所保育指針（チャイルド本社） 保育所保育指針解説（フレーベル館）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義の予習や課題に意欲的取り組んでいきましょう。

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育実習指導Ⅰ(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目	勝見・田母神・1)矢吹・鈴木 1)保育園(保育士)25年勤務	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

保育実習の意義や目的を理解し、事前指導、事後指導を通して、保育士としての自らの課題を明確にしていく。また、実習をする際に必要である、マナーやプライバシーの保護、守秘義務等について理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育実習の意義・目的・内容を理解することが出来る。	発達援助技術
②実習における留意点を理解することが出来る。	前に踏み出す力
③実習の計画・実践・観察・記録の方法について具体的に理解することが出来る。	環境構成技術
④実習事後指導を通して、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。	遊びの展開技術
	コミュニケーション技術

【履修上の注意】この科目が不合格の場合は、保育実習に参加することが出来なくなるため十分に注意すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション 勝見	講義内容や履修上の注意点を理解する。保育士の資格を理解する。	個人
2	保育実習の意義 勝見	保育実習の目的・概要について理解する。	個人
3	保育実習に際して留意点 勝見	子どもの権利条約や子どもの最善の利益について理解する。	個人
4	保育実習の心構えと準備 田母神	実習の進め方や求められるマナーについて知る。	個人
5	保育環境と安全・キッズ東都学園保育園の概要 田母神	子どもが安心して過ごすことができる環境について理解する。	個人
6	子ども理解① 矢吹・鈴木	子どもの発達過程について、調べ学習を通して理解する。	グループ
7	子ども理解② 矢吹・鈴木	子どもの発達過程を踏まえ、その時期の興味・関心について理解する。	グループ
8	子ども理解③ 矢吹・鈴木	調べ学習した内容を資料にまとめ、子どもの発達過程や興味・関心に関連した教材について理解する。	グループ
9	子ども理解④ 矢吹・鈴木	作成した資料を基に、子どもの発達過程や興味・関心に応じた教材について考察し作成する。	グループ
10	子ども理解⑤ 矢吹・鈴木	作成した資料を基に、子どもの発達過程や興味・関心に応じた教材について考察し作成する。	グループ
11	子ども理解⑥ 矢吹・鈴木	作成した資料を基に、子どもの発達過程や興味・関心に応じた教材について発表し、他者の考えを踏まえて理解を深める。	グループ
12	子ども理解⑦ 矢吹・鈴木	作成した資料を基に、子どもの発達過程や興味・関心に応じた教材について発表し、他者の考えを踏まえて理解を深める。	グループ
13	保育実習の記録① 田母神	実習を記録することの意義とその具体的な記入の方法について理解する。	個人
14	保育実習の記録② 田母神	実習を記録することの意義とその具体的な記入の方法について理解する。	個人
15	保育体験学習 矢吹・鈴木	附属保育園・附属放課後等デイサービスの体験を通して子ども理解を深める。	個人

期末試験		評価方法		
実技試験		課題の達成度	20%	実技試験 50%
		受講態度	30%	

【教科書】	実習の手引き・福島県保育実習施設(福島県保育者養成連絡会) フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画(萌林書林) 学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林)
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】附帯施設での実習やボランティアでは保育学生としての服装や態度に十分気を付ける。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育実習指導Ⅰ(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目	勝見・田母神・1)矢吹・鈴木 1)保育園(保育士)25年勤務	矢吹

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

保育実習の意義や目的を理解し、事前指導、事後指導を通して、保育士としての自らの課題を明確にしていく。また、実習をする際に必要である、マナーやプライバシーの保護、守秘義務等について理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育実習の意義・目的・内容を理解することが出来る。	発達援助技術
②実習における留意点を理解することが出来る。	前に踏み出す力
③実習の計画・実践・観察・記録の方法について具体的に理解することが出来る。	環境構成技術
④実習事後指導を通して、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。	遊びの展開技術
	コミュニケーション技術

【履修上の注意】この科目が不合格の場合は、保育実習に参加することが出来なくなるため十分に注意すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	夏休み体験学習の事後指導 矢吹	実習地保育体験学習を振り返り、保育士の仕事や子どもの援助について理解を深める。	個人
2	施設実習の理解① 勝見	調べ学習を通して施設の理解をする。	個人
3	施設実習の理解② 勝見	DVDを通して児童養護施設を理解し、感想及び疑問点についてレポートを作成する。	個人
4	施設実習の理解③ 勝見	DVDを通して知的障害児施設を理解し、感想及び疑問点についてレポートを作成する。	個人
5	施設実習の理解④ 勝見	DVDを通して乳児院を理解し、感想及び疑問点についてレポートを作成する。	個人
6	施設実習の理解⑤ 勝見	DVDを通して重症心身障害児施設を理解し、感想及び疑問点についてレポートを作成する。	グループ
7	施設実習の理解⑥ 勝見	DVDで観た施設に対する感想、疑問への回答を通して施設と施設実習の理解を深める。	グループ
8	保育所における計画案① 田母神	保育施設の指導計画案について理解する。	個人
9	保育所における計画案② 田母神	実習生が作成する指導計画案の意義について理解する。	個人
10	保育所における計画案③ 田母神	実習における指導実習の計画案を書いてみよう。	グループ
11	保育所における計画案④ 田母神	実習における指導計画案に基づいて実践してみよう。	個人
12	附属保育園体験学習 矢吹	保育園の一日の生活の流れを理解する。	個人
13	附属保育園体験学習事後指導 矢吹	体験学習を振り返り、記録の書き方を理解する。	個人
14	実習直前指導 鈴木	実習の目標と抱負を明確にし、事前オリエンテーションの内容を理解する。	個人
15	実習事後指導 鈴木	自己評価と実習先評価を照らし合わせ、今後に向けた課題を明確化し、自己課題を理解する。	個人

期末試験	実技試験	評価方法	課題の達成度 20%	実技試験 50%
			受講態度 30%	

【教科書】	実習の手引き・福島県保育実習施設(福島県保育者養成連絡会) フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画(萌林書林)　学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林)
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
音楽・ゼミⅠ	1)鈴木　夏恵　・　熊田　桂子 1）保育園（保育士）5年勤務	鈴木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

乳幼児の感性と表現力を養うために、ピアノ（伴奏、弾き語り）や手遊びの基礎技能の習得をし、技術を定着させる。また、子どもたちが笑顔になるような伝え方、表情、表現力等の実践的なスキルを身に付ける。

【学習目標（到達目標）】

①保育現場でよく歌われる楽曲を弾いたり、弾き歌いができるようにする。
②譜読みができるようになったり、表現力の向上など、各自のレベルに合わせてステップアップする。
③声の出し方、話すテンポ、表情などの「見せ方」が工夫できるようになる。
②子どもたちの前で実践できる手遊びを覚え、自信をもってできるようにする。

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
遊びの展開技術

【履修上の注意】ピアノを練習する習慣をつけていきましょう。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション 手遊び・ピアノの導入	授業内容、目的、授業の進め方、音楽室やピアノレッスン室の使い方を理解する。	個人
2	園生活のうた・ピアノ（1） バイエル・ソルフェージュ	園生活でよく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 バイエルを弾く練習・ソルフェージュの練習をする。	個人
3	園生活のうた・ピアノ（2） 定番の手遊び	園生活でよく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 子どもが楽しく参加できる手遊びを覚える。	個人
4	園生活のうた・ピアノ（3） バイエル・ソルフェージュ	園生活でよく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 バイエルを弾く練習・ソルフェージュの練習をする。	個人
5	春のうた・ピアノ（1） 年齢に応じた手遊び	春によく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 年齢による発達を理解し、発達に応じた手遊びを覚える。	個人
6	春のうた・ピアノ（2） バイエル・ソルフェージュ	春によく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 バイエルを弾く練習・ソルフェージュの練習をする。	個人
7	春のうた・ピアノ（3） バイエル・ソルフェージュ	春によく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 バイエルを弾く練習・ソルフェージュの練習をする。	個人
8	夏のうた・ピアノ（1） 年齢に応じた手遊び	夏によく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 0～2歳児の発達を理解し、発達に応じた手遊びを覚える。	個人
9	夏のうた・ピアノ（2） 年齢に応じた手遊び	夏によく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 3～5歳児の発達を理解し、発達に応じた手遊びを覚える。	個人
10	夏のうた・ピアノ（3） 年齢に応じた手遊び	夏によく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 手遊びをするときの保育者の表現力や配慮事項を理解する。	個人
11	保育実践（ピアノ・うた）	童謡やバイエル、ソルフェージュの課題曲の到達度を確認する。 振り返りを行ない、自己課題に取り組む。	グループ
12	保育実践（ピアノ・うた）	童謡やバイエル、ソルフェージュの課題曲の到達度を確認する。	グループ
13	行事のうた・ピアノ 保育実践（手遊び）	行事でよく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 実技試験と同じ環境で手遊びを実践し、振り返りをする。	グループ
14	保育実践（ピアノ・手遊び）	実技試験と同じ環境で手遊びをしたり、ピアノを弾き、実技試験に向けた練習を行なう。	グループ
15	課題練習	保育実践を振り返り、実技試験に向けて練習する。	個人

期末試験	評価方法		
実技試験 （ピアノ・手遊び）	受講態度	30%	実技試験　50%
	課題の達成度	20%	

【教科書】
幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育（教育芸術社）
保育者になるためのピアノ教本（エイデル研究所）

【参考書】
いちばんカンタン！保育のうた　ピアノ伴奏（ナツメ社）
0～5歳児の手あそび・うたあそび（ナツメ社）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ピアノの上達には日々の練習の積み重ねが重要です。また、手遊びを調べたりしながらレパートリーを増やしまし

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
音楽・ゼミⅡ	1)鈴木　恵夏　・　熊田　桂子 1)　保育園(保育士)5年勤務	鈴木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

乳幼児の感性と表現力を養うために、ピアノ(伴奏、弾き語り)や手遊びの基礎技能の習得をし、技術を定着させる。また、子どもたちが笑顔になるような伝え方、表情、表現力等の実践的なスキルを身に付ける。

【学習目標(到達目標)】

①保育現場でよく歌われる楽曲を弾いたり、弾き歌いができるようにする。
②譜読みができるようになったり、表現力の向上など、各自のレベルに合わせてステップアップする。
③声の出し方、話すテンポ、表情などの「見せ方」が工夫できるようになる。
②子どもたちの前で実践できる手遊びを覚え、自信をもってできるようにする。

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
遊びの展開技術

【履修上の注意】ピアノを練習する習慣をつけていきましょう。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション 手遊び・ピアノの到達度確認	授業内容、目的、授業の進め方を理解する。 手遊び・ピアノの課題曲の確認をする。	個人
2	秋のうた・ピアノ(1) バイエル・ソルフェージュ	秋によく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 バイエルを弾く練習・ソルフェージュの練習をする。	個人
3	秋のうた・ピアノ(2) 手遊びの実践	秋によく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 各自調べてきた手遊びを発表、実践する。	個人
4	秋のうた・ピアノ(3) バイエル・ソルフェージュ	秋によく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 バイエルを弾く練習・ソルフェージュの練習をする。	個人
5	冬のうた・ピアノ(1) 手遊びの実践	冬によく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 子どもたちの前で手遊びをするときのポイントを踏まえて、実践をする。	個人
6	冬のうた・ピアノ(2) バイエル・ソルフェージュ	冬によく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 バイエルを弾く練習・ソルフェージュの練習をする。	個人
7	子どもに人気のうた・ピアノ(1) 手遊びのプログラム検討	保育現場でよく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 保育現場での実践を想定した手遊びのプログラムを考える。	個人
8	子どもに人気のうた・ピアノ(2) バイエル・ソルフェージュ	保育現場でよく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 バイエルを弾く練習・ソルフェージュの練習をする。	個人
9	子どもに人気のうた・ピアノ(3) 手遊びのプログラム練習	保育現場でよく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 保育現場での実践を想定した手遊びのプログラムを練習す	個人
10	保育実践(ピアノ・うた)	童謡やバイエル、ソルフェージュの課題曲の到達度を確認する。 また、その振り返りを行ない、自己課題に取り組む。	グループ
11	行事のうた・ピアノ(1) 手遊びのプログラム実践	行事でよく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 手遊びのプログラムを実践し、振り返りを行なう。	グループ
12	保育実践(ピアノ・うた)	童謡やバイエル、ソルフェージュの課題曲の到達度を確認する。	グループ
13	行事のうた・ピアノ(2) 保育実践(手遊び)	行事でよく歌われる曲を歌ったり、ピアノを弾く練習をする。 実技試験と同じ環境で手遊びを実践し、振り返りをする。	グループ
14	保育実践(ピアノ・手遊び)	実技試験と同じ環境で手遊びをしたり、ピアノを弾き、実技試験に向けた練習を行なう。	グループ
15	課題練習	保育実践を振り返り、実技試験に向けて練習する。	個人

期末試験		評価方法		
実技試験 (ピアノ・手遊び)		受講態度 課題の達成度	30% 20%	実技試験 50%

【教科書】	幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育(教育芸術社) 保育者になるためのピアノ教本(エイデル研究所)
【参考書】	いちばんカンタン！保育のうた　ピアノ伴奏(ナツメ社) 0～5歳児の手あそび・うたあそび(ナツメ社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ピアノの上達には日々の練習の積み重ねが重要です。また、手遊びを調べたりしながらレパートリーを増やしまし

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて